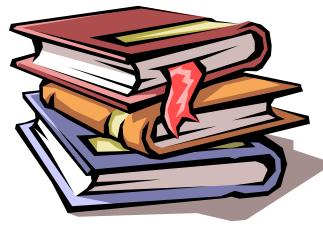


NEWS LETTER



NO.3 2000.6.10

にほんごひろば岡本

発行：にほんごひろば岡本（甲山国際文科学館内）
〒658-0003 神戸市東灘区本山北町 3-2-10
TEL : 078-453-5931

新 緑の美しさに目を奪われているうちに、早や梅雨の季節となりました。昨年の11月に産声をあげた「にほんごひろば岡本」は、多くの方々のご協力・ご支援をいただき、無事に新年度を迎えることができました。支援者の皆さんに「来て良かった」と言っていただける広場、学習者の皆さんのが「日本語のべんきょうは楽しい」と通って来られる広場になるように努めたいと思っております。

6月現在、学習者は31名を数え、10代前半から50代後半まで、15カ国の人たちが私たちと共に日本語を学習しています。男女比は15対16でほぼ同数、レベルは、おおよそのところ入門9、初級11、初中級5、中級3、中上級2、上級1となっています。

日本語学習を必要とする人がいれば、できる限りのお手伝いをしたいという気持ちで始めた活動が、少しずつ実を結んできていると感じています。ここに改めて支援者の方々の熱意に感謝し、学習者の皆さんの意欲に敬意を表したいと思います。

学習者の内訳

2000年6月10日現在

国名	中国	香港	台湾	ブラジル	アメリカ 合衆国	カナダ	韓国	イドネシア	タイ	スリランカ	バンコク ティッシュ	ドイツ	アルゼンチン	ペルー	エジプト		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	合計
10代	2				1	1					1						5
20代	1				1	1	1	1	1	1		1		1	1	1	12
30代	1		1	1	1	1									1		6
40代	1	1	1	1	1	1			1		1						7
50代														1			1
計	2	4	0	2	1	2	4	2	2	1	1	0	1	0	1	1	31
合計	6	2	3	6	3	2	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	31

学習者紹介

宮崎ケーリさん（女性）ブラジル出身

「将来はお医者さんになりたい」

日系ブラジル人の宮崎ケーリさんが初めて「にほんごひろば岡本」に来られたのは平成11年12月15日でした。会社（フード・ドレイン武蔵野）の女性と一緒にいました。その女性が言われるには、彼女はとても頭が良く日本語もよくできるので、このまま、ただ会社で働いているのはもったいないと思って連れて來た、とのことでした。女性が言わるようにケーリさんは



とてもよく日本語が理解できました。日本に来て中学校に行き、そこで日本語の特別授業を受けたということでした。1週間に2回会社の休みがあるので、その日がレッスン日に決まりました。しかし、やはり彼女も15歳の女の子、勉強よりも遊びを優先したい年齢です。そのうえ、体もすこし壊したりして、学習は思うように進みませんでした。それでも「ひろば」に來たときにはまじめに勉強し、宿題もしてきました。

仕事は朝6時から午後3時まで、お弁当の材料を切る仕事です。朝は4時半には起きて仕事に行くので、「夜は何をしますか？」という質問にはいつも「寝ています」と答えます。クリスマスもお正月も会社にとっては、かきいれ時なので休みはありません。しかし、今年になって彼女には良いことがありました。新しく建ったアパートに引越しできることでした。そこはとてもきれいで、エアコンも付いています。

ブラジルに帰ったら学校に行って、将来はお医者さんになりたいということです。現在、ブラジルに帰ってからの進路に役立つようポルトガル語で通信教育を受けています。

彼女にとって日本語の勉強がどこまで意味を持つのか私には分かりませんが、休みながらも「ひろば」に来続けてくれることを願っています。

私は、彼女が「ひろば」に來た時に見せる少しばかりかんだような笑顔と、日本語の勉強がよくできた時の誇らしそうな笑顔を見るのが好きです。
（佐古田幹子）

ロシカ・ジルベルトさん（男性）ブラジル出身

「ワタシハ、ポルトガルゴヨリ、ニホンゴガ、スキデス」

ナントカ・ルミナルエ・・・イ？？？

私の担当したロシカ・ジルベルト・ふかまつ君、17歳から教えてもらったポルトガル語の一つです。20数年間、ポルトガル語を耳にし、ましてや口に出すことの少なかった私には、この言葉を聞いた時、なかなか思うように言うことができなくて、その後の学習の時にも、度々登場することになるのですが、その度ごとに彼を笑わせることになりました。

今となれば、少し真面目で、熱くなりがちだった授業の雰囲気をなごませる、Keyとなつたなあと、

思いますが・・・でも本当に、聞いたことのない言葉を耳にし、そして、意味を理解して、口に出すのは、難しい・・・現にあんなにジル（ジルベルト）君に教えてもらったのに、今こうしていても、ナントカ・ルミナルエ・・・とごまかしている次第です。また、きっと、彼もそうであったろうと思います。

日本語であれ、何の言葉であれ、習得してそれをうまく使いこなせるようになるには、その言葉を初めて習った時の印象や環境がとても大切だと思います。なので、そういう環境を作るよう心掛けました。

これらのことは、そう容易でない教師の技の一つなのかもしれません、ここ「にほんごひろば岡本」の環境は、こういった技をうまく使える場所の一つではないでしょうか。

時にはうつむいたままになりがちな1対1の授業であっても、立ったり、座ったり、走ったりしました。



私との学習に彼は本当に熱心に取り組んでくれました。・・・Obrigado・・・最後にいつも「ワタシハ、ポルトガルゴヨリ、ニホンゴガ、スキデス」と言って、ニコッと笑ってくれたジルベルト君の、今後の活躍を祈りたいと思います。

ちなみに、冒頭の単語（ポルトガル語）の意味ですが、ちゃんとした言葉は、[Adjetivo i] といい、文法用語のイ形容詞のことです。
（山下圭子）

オラシオ・グスクマさん（男性）アルゼンチン出身

「漢字を早く覚えたい」

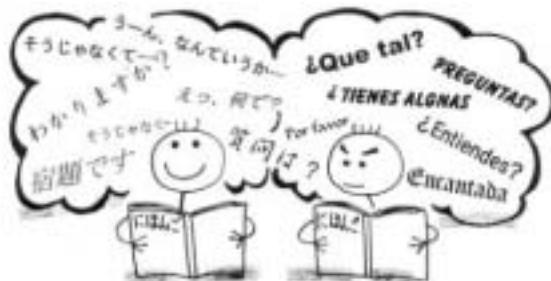
オラシオさんは、ニッコリ笑うと白い歯がきれいな、28歳です。

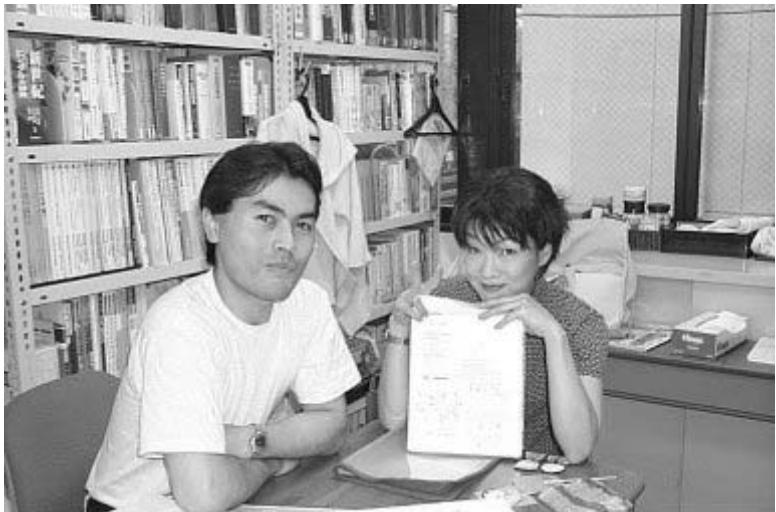
ご両親が沖縄の方で、いわゆる日系。 グスクマ という名前も、私はてっきりアルゼンチンの名前だと思っていたのですが、実は「城間」と書き、沖縄の名前だそうです。幼いころ、母国で日本人学校に通い、ひろがな・カタカナをはじめ、ほんの少しの日本語を勉強したことがあるそうです。

「漢字を早く覚えたい」という、とても熱心で意欲的な方です。「日本が好き。アルゼンチンに帰りたくない」という言葉に、私自身うれしいと同時に、ここ「にほんごひろば岡本」でもっとたくさんの日本語を楽しくしっかりと学んでもらうために、こちらもさらに努力しなければ、という気持ちにさせられます。

そんなオラシオさんは、生活パターンが普通と逆。夕方6時から、朝の6時までのお仕事をしています。ですから、例文にちょっと困ることもあります。先日のレッスンでは、「～時から～時まで働きます」「～時に寝ます」などを学習したのですが、二人で笑いながら話し合い、なんとか表現できるようになりました。

もうひとつ、困ったことが。それはチョット汚い言葉を覚えてしまうことです。





王・禹さん（男性）中国出身

「王さんも私も予習が大変」

みなさん、こんにちは、今日は、王さんを紹介します。

王さんは、26歳の男性で今年の3月に天津から仕事のため来日しました。「にほんごひろば岡本」には、王さんの強い希望で週2回、午前中に来ています。学習が終わると、急いで三宮にあるコンピュータリサーチの会社に向かいます。

最初は場慣れしていなかったせいか、やや緊張ぎみで硬い表情でしたが、2ヶ月たった今では、授業中もよく笑い、自分から日本語を話そうと、一生懸命がんばっています。

テキストは、『日本語中級読解』を使用し、今は、第5課が終わったところです。このテキストは、身近なテーマから日本の文化・文学・芸術・時事・社会問題など広範囲にバランスよく取り入れられています。読解に多少慣れてきた、中級レベルの学習者向けの教材となっています。実際に使ってみて、語句の量が多く、王さんも私も予習が大変ですが、テーマにあわせて、いろいろな話ができるので、毎回楽しく授業をしています。

（山本晃子）



午前中は、空き教室がないため、事務所で学習しています。礼儀正しく、さわやかな王さんは、学校のスタッフの人たちにも好感を持って迎えられているようです。

グレッグさん（男性）アメリカ合衆国出身

「繊細な神経の持ち主グレッグさん」

グレッグさんは、現在イーオン英会話学校の明石校で働く24歳のアメリカ人。

『日本語中級読解入門 第5課』終了。「にほんごひろば岡本」に来て約1ヶ月です。日本語能力試験2級合格をめざしたいとがんばっています。

2週間ほど前、彼を交えて夕食を食べに行きました。

「鹿児島県の方言で『灰』を『へ』っていうねん」と、ある人が言うと、彼はすかさず、「じゃあ、これは『へ皿』？」と灰皿を指差して言いました。頭の回転の早さと、応用力におどろきました。

彼は、間違いなく猛スピードで日本語を習得していくでしょう。日本語教育の新人である私も、彼の成長に負けないよう一生懸命努めようと思います。

（緋田康代）

追記：身長190cm（？）の堂々たる体に、非常に繊細な神経を持ちあわせているグレッグさん。こちらの都合で支援者を変更した時、「私、彼女にストレスを与える了？」と心配そうにたずねられ、驚いてしまいました。



あの人今 ~学習者の近況報告~

上海出身の黄奕爾さん

「記念すべき最初の学習者は・・・」

黄奕爾さんは、1999.12.1発行のNews Letterで紹介した少女です。

現在、仁川学院中学校の1年生です。「にほんごひろば岡本」の記念すべき最初の学習者で、今、『みんなの日本語初級』第31課「意向形」を学習しています。「う～ん、難しいなあ」と言いながらも順調に進み、日常会話の中では、もうテキストを追い抜いている感のある昨今です。

日本語だけでなく、教科の学習も支援していただき、苦手なはずの国語や社会もメキメキ実力をつけてきています。先日の中間テストでは、日本語のハンディがあるとは思えない素晴らしい成績でした。誰にでも好かれる奕爾さんは、生き生きと充実した学校生活を送っている様子です。

たくさんの支援者（萩谷和子さん、天羽修江さん、勝島千晶さん、高見友里子さん、小野寺友紀さん、信治沙知さん）に見守られ、日々成長していく彼女の姿は、「にほんごひろば岡本」の誇りです。

ベトナムのシンさん

「笑顔がステキ」

3月の或る日、どしゃ降りの雨の中、花束を抱えて「にほんごひろば」に現れたシンさん。アジア防災センターの研究員として来日、直後から約2ヶ月、吉川友英さん（甲南大4回生）の支援で学習し、

日本語にも大分慣れてこられたところでした。交流会でのんなつっこい笑顔を思い出される人も多いことでしょう。留学先タイでの今後の活躍をお祈りいたします。

ブラジルのジルベルトさん

「甘い香りを残して帰国」

ロックミュージックの大好きな17歳の若者。お弁当会社「武蔵野」で働きながら、週2回山下圭子さん、児玉久実さんの支援で学習し、「新日本語の基礎」を終了しました。漢字の習得にも意欲的で、帰国する少し前、「漢字を使って手紙を書きます」と、はにかみながら話してくれました。また、バレンタインデーに「これ、ブラジルのチョコレートです」と大きな卵形のホワイトチョコレートをプレゼントされ、私たち女性は、「こりゃー参った。逆さまやねえ」と感激しながら、チョコレートの甘さと共にジルベルトさんの優しい気持ちを味わわせてもらいました。

きっちりした自分の人生設計をたてている彼のことですから、日本語だけでなく、日本で経験した色々な事を今後の生活に大いに役立てられていることでしょう。

「にほんごひろば」は「English Square」

4月以降、新しい学習者の中に、英会話学校の先生が増えました。日本語は全く初めての人がほとんどなので、どうしても英語で説明することが多くなります。

時々、「あれっ？ここは英会話スクール？」といった雰囲気になることも・・・」



第2回日本語教育ワークショップ レポート

2000年3月11日、第2回日本語教育ワークショップが行われました。講師は前回と同様、神戸松蔭女子学院大学の下田先生が指導して下さいました。

内容は 可能、可能形の文を使ったタスク、そして、前回皆さんが出した質問・疑問に対する答えもその都度織り交ぜての講義でした。

可能是、「みんなの日本語、第27課」の文型、例文、練習を分析し説明がありました。また、よ

く問題になる「ら抜き」についても、みんなで一緒に考えてみました。興味深かったのは、「ら抜き」が起こるのは年齢差、性差、地域差が大きく関係しているということ。また、関西弁は能力可能と状況可能をとても複雑に使い分けているということでした。例を上げると、「知らない漢字が多くて、読めへん/読まれへん/」「暗くて、読めへん/読まへん」となるようです。

可能形の文を使ったタスクは、いろいろな仕事でのボランティアを選ぶのに、面接者と志願者の役割で、ロール・プレイを行いました。その際、先生から幾つかのポイントを与えられました。それは、ユーモアのある質問をする（ユーモアのポイントを考える）質問は一般化しない、などでした。印象に残ったものとしては、子どもキャンプのボランティア指導者を選考するのに、「外でトイレができますか」「カレーライスが作れますか」などの質問を作ったグループもありました。

前回皆さんが出した質問・疑問は、日本語の文法的なものから教授方法の具体的なもの、異文化に対する考え方などものまでありました。

下田先生から、日本語を教えていく上では、型にはまった硬い考え方ではなく、もっと大きな視野に立って物事を捉えていくことが大切だ、というお話をありました。



<ワークショップに参加して>

このワークショップには、私のように、数十時間の支援者養成講座を受けただけで支援をしている者や、もう何年も支援をされている方、大学で日本語教育を専攻されている方々まで、実にさまざまな人が参加されています。このさまざまな段階の人が一緒に研修するというのは、講義をされる方も受ける方もなかなか大変ではないかと思います。しかし、希望テーマや質問・疑問の項を見てみると、まさに「そうなんですね」(当日のテーマである感情が入った言い方の使い分けの一つ)と、うなずける事ばかりです。そういう意味では、「初めて教える人、あまり経験のない人に役立つ内容の参加型勉強会」にする為に、かみくだいた内容にしていただいているものと有難く感じました。

初心者としては、支援の中で、他人はどう支援しているのか、マニュアル的にどうあるべきなのかを知りたいのです。そこで、具体的に一つの学習項目に関して、「どう支援しているか、どう対処しているか、またどう対処すべきか」を学びたいと思います。ベテランの方々に模擬実習をお願いしたり、場合によっては、脚本をもとに演じていただけたら、何よりも勉強になるのではと思います。是非、一度ご検討をお願いします。

(四本 裕)

<お知らせ>

第3回日本語教育ワークショップ

日 時 6月25日(日)10:00~12:00

場 所 甲山国際文科学館

講 師 下田美津子先生(神戸松蔭女子学院大学)

内容は「あげます・もらいます」を中心に行う予定です。是非、ご参加ください。

総会

日 時 6月25日(日)12:00~13:00

場 所 甲山国際文科学館

軽い昼食を取りながら、これまでの活動報告と今後の方針などについて話し合いをしたいと思います。

(昼食費 500円)

支援者交流会

日 時 6月25日(日)13:00~15:00

場 所 甲山国際文科学館

学習支援をしていく上での疑問や悩みなど自由に話し合って下さい。下田先生にも参加していただけます。なお、学習者との交流会は夏休みに予定しております。皆さんの参加、お待ちしています。

編集後記

第3号からサイズがA4判になりました。写真をたくさん入れたり、表を付けたり、四苦八苦してまして、発行が遅くなり申しわけありませんでした。次号の内容をよりいっそう充実させるため、皆さんのお知恵を拝借したいと思っています。学習者の近況、支援者の喜び・悩み、写真・イラスト etc.お待ちしております。